

平成 23 年度 高等学校における学校評価（関係者評価）の結果報告

平成 23 年度に高等学校において実施した学校評価（関係者評価）の結果を報告致します。

■学校評価の実施方法

- 1) 実施時期 平成 24 年 1 月
- 2) 調査対象 高等学校の保護者・生徒（全）
- 3) 評価項目 教育活動全般および学校に対する全体的評価を行いました。
- 4) 評価方法 各項目について、5 段階評価を行いました。
 - 5：その通りである
 - 4：どちらかと言えばその通りである
 - 3：どちらとも言えない
 - 2：どちらかと言えば違う
 - 1：まったく違う

■評価の重点項目

◎評価の重点項目

- ①学習指導の充実
- ②生徒指導の充実
- ③進路指導の充実
- ④人権教育の充実

◎平成 23 年度の学校教育目標

1. 学 習 基本的な学習態度を身につけ、基礎学力の習得・定着を図り、学力の向上を目指す。
2. 生 活 基本的な生活習慣、規律ある態度を養い、集団生活における社会性を身につけさせる。
3. 進 路 将来の進路目標を見つけ、個性を磨き、目標を実現しようと努力する態度を育てる。
4. 人 権 人権意識を高め、周囲の人を尊重し、良い人間関係を築こうとする態度を養う。

■概 評

【関係者評価の昨年度との比較】

本学園の教育理念は人をつくることにあり、豊かな人間性を備えた人の育成を目指している。この学校評価は保護者・生徒による関係者評価にもとづくものである。関係者による学校評価を行うことによって、学校の教育目標を実現するための教育内容や指導方法が適切なものであるか振り返り、今後の更なる教育改善に取り組もうとしている。

このアンケートの回収は、在籍者数 1303 名のうち保護者 986 件（回収率 76%）、生徒 1173 件（回収率 90%）であった。1000 件を超えるデータの平均値であるため、昨年度のデータと大きな変化は見られないが、0.1 ポイントの差異であっても、かなりの数の保護者または生徒の評価が変化したと捉えなければならない。

23 年度の教員の自己評価では、特に教科指導・生徒指導・生徒支援（進路指導を含む）・人権教育の分野・項目で評価が高くなっている。この結果は、教員が目標・課題を意識して、熱心に教育に取り組んだことの

表れとすることができる。しかし、保護者・生徒の評価はそれほど高くないことから、教員の熱意や意欲が必ずしも保護者・生徒には浸透していない部分があると言わなければならない。私たちは一層教育内容や指導方法の改善に取り組まなくてはならない。

【重点的な目標と計画】

重点的な目標は、上に掲げた学習・生活・進路・人権の4つの柱である。この4つの教育目標は、自己評価と比べてその数値が関係者評価において低く出る傾向にあり、これらの評価をさらにあげるためには、教科指導や生活指導、学年・学級における指導のあり方を見直し改善して指導にあたらなければならない。教員と生徒のコミュニケーションのあり方、支援の指導、個々に応じた対応など一層の丁寧さやきめ細かさが求められている。

■アンケートの集計結果とコメント

保護者・生徒への質問項目と集計結果は以下の通りである。

※昨年度（H 22 年度）の集計結果と比較・検討した。

番	項 目	H22 保護者	H22 生徒	H23 保護者	H23 生徒
1	授業は落ち着いた雰囲気の中で分かりやすく教えている	3.3	3.0	3.3	3.1
2	学力向上のために教科の学習内容を熱心に指導している	3.5	3.2	3.5	3.3
3	生徒の進路に関する説明会や情報提供がなされている	3.7	3.3	3.7	3.3
4	学園の短大や大学への進学がある程度保障されていて安心だ	3.8	3.3	3.8	3.3
5	生徒個々の個性や目標に応じた進路指導が行われている	3.6	3.2	3.6	3.3

1, 2 は教科指導についての評価である。落ち着いた学習環境、分かりやすい指導など、いずれも評価は高くはないが、生徒の評価はわずかながらアップした。基本的な学習態度を身につけさせ、基礎学力がしっかりと定着しさらに向上するよう改善が求められる。保護者や生徒はより分かりやすい授業を望んでいると受け止めなければならない。

◎教科指導について個々の教員が創意工夫を図るとともに、教科指導法について研修会を持つことを検討しなければならない。

3, 4, 5 は進路指導についての評価である。保護者はある程度評価してくれているものの、生徒の評価は厳しく、より目標実現に向けて熱心な指導を求めている。

◎3年間に渡る計画的な進路指導・進路学習を実施するとともに、生徒一人ひとりに対する進路相談を丁寧に実施したい。

番	項 目	H22 保護者	H22 生徒	H23 保護者	H23 生徒
6	いろいろなクラブ活動・特設科などが活発に行われている	4.1	3.8	4.0	3.7
7	文化祭・体育会など行事は活発に行われている	4.0	3.5	3.9	3.5
8	服装・頭髪・持ち物など生活面での規則・ルールは適切である	3.7	3.3	3.6	3.2
9	生活面での規則・ルールはよく守られている	3.4	3.1	3.5	3.2
10	学年・クラスでの生活指導はしっかり行われている	3.6	3.3	3.6	3.3
11	学校での友人関係・友達付き合いは良い	4.0	3.7	3.9	3.6

6, 7 は生徒会活動等の評価である。保護者は高く評価してくれてはいるものの、昨年度に比べると保護者・生徒とも評価が厳しくなっている。もっと活発な活動や活躍できる機会の提供を望んでいると理解される。多くの生徒が活躍できる生徒会活動をさらに充実したものになるよう支援していく必要がある。

◎生徒間の親睦を深め体験と行動を通して学ぶことの意義を考え、新たな企画も検討してみたい。

8, 9, 10 は生徒指導の評価である。「規律・マナーの向上」を目指し月間目標等を掲げて指導してはしているものの、保護者・生徒とも生徒指導を十分にやっているという所までは評価していない。生徒に我々教員の

真意が伝わるような指導の工夫が必要である。

◎生徒一人ひとりに熱心にかかわり、規律やマナー・社会性を獲得することが大切だということをよく説明して生徒指導にあたりたい。

11は友人関係の評価である。保護者・生徒とも友人関係はほぼ良好だと受け止められているが、昨年度よりどちらもわずかではあるが評価が下がっていることを踏まえ、より良い人間関係を築くよう指導していかなければならない。

◎周囲の人を尊重し、より良い人間関係と社会を築くことが大切だと教えていきたい。

番	項 目	H22 保護者	H22 生徒	H23 保護者	H23 生徒
12	生徒は先生を信頼しており先生・生徒の関係は良い	3.7	3.1	3.6	3.2
13	勉強や進路、個人的な悩みなど先生に相談しやすい	3.5	3.0	3.5	3.1

12、13は生徒と教員の信頼関係の評価である。保護者は教員に対してある程度信頼を寄せてくれているようだが、生徒からの信頼は昨年度よりは高くはなっているものの、十分という評価ではない。さらに生徒からの信頼を得られるよう生徒の気持ちを受け止めて悩み事などの相談に応じていきたい。

◎生徒をよく観察し、理解し、受け止め、ともに考え、課題を解決していこうと心がけたい。そのような意識と態度を身につけるための研修を企画する必要がある。

番	項 目	H22 保護者	H22 生徒	H23 保護者	H23 生徒
14	学校からの行事予定など連絡事項は家庭によく伝えられている	3.9	3.2	3.9	3.3
15	学校のトピック・情報はホームページなどでよく伝えられている	3.6	3.2	3.7	3.2
16	生徒会活動やP T Aの活動は活発でよく協力している	3.3	3.3	3.3	3.3

14、15は情報公開の評価である。保護者はメルポコによる情報発信等ある程度評価はしているが、生徒は学校の情報発信力は低いと感じている。

◎生徒が生き生きとした学校生活を送ることがまず大切で、そのことが情報として丁寧に定期的に発信されれば、保護者の学校理解はさらに深まるだろう。

16はP T A活動の評価である。これは家庭と学校の連携についての評価でもある。活動であれ生徒指導であれ、家庭と学校の連携は十分ではないと評価されている。生徒指導面では、教員はそのつど家庭と連絡を密に取り合っているが、家庭との多方面にわたる連携をさらに拡充することが求められている。

◎P T A活動は一部の委員にとどまりがちである。他の保護者にも門戸を広げたい。

番	項 目	H22 保護者	H22 生徒	H23 保護者	H23 生徒
17	フォーマルとインフォーマルの組合せが可能な制服に満足している	3.9	3.7	3.9	3.7
18	学校の施設・設備は良く整っている	3.9	3.4	3.9	3.5
19	校内の美化・清掃は行き届いている	3.9	3.3	3.9	3.4
20	学校の雰囲気は全体的に良いと思う	3.8	3.2	3.8	3.3
21	学校は楽しく入学してよかったと思う	4.0	3.3	4.0	3.3
22	この学校は生徒を成長させてくれると思う	3.8	3.2	3.8	3.3

17、18、19、20は学校の教育環境全般に対する評価である。保護者は概ね教育環境について満足しているが、生徒の満足度は高くはないが、全ての項目でわずかながら上昇している。生徒の満足度がより高くなるよう環境の整備に努めたい。

◎新しい校舎を建設中であるが、既存の校舎・施設の改修を行い教育環境の整備・美化に努めている。

21, 22は本校の教育に対する総合的な評価である。保護者は概ね満足していただいているが生徒の評価は決して高くない。教員はもっと生徒の中に入り込んで指導し、生徒が自分に自信が持てるよう個性・能力を伸ばし、成長を促さなければならない。

◎保護者・生徒の満足度を高めるためにすべての努力を払わなければならない。教育環境・教育内容・教員の資質向上・進路保障等、教育のすべての分野のたゆまぬ改善・努力が求められる。

■学校運営の改善

関係者評価の結果を昨年度の数値との比較検討を踏まえ、今後の重点的な目標・指導計画、改善方策および学校運営のあり方について以下にまとめた。

1. 今後、重点的に取り組む目標・計画

本校が設定している教育目標は生徒の健全な育成に必要なかつ適切なものと考え、上記の通り引き続き目標として掲げていきたい。それらの教育目標について、一層その成果を上げるための計画および具体的な方策を検討する必要がある。

2. 今後の改善方策

◎学校の重点目標とその実施計画

①学習指導の充実

ア) 教科指導委員会において授業の充実方策や学習指導の計画や目標の設定を行う。

イ) 教科会議において教科指導の充実や指導方法の検討を行う。

②生徒指導の強化

ア) 生徒指導部と学年が連携して、生徒の規範意識を高め規律ある態度を養うよう年間の指導計画を立てる。

イ) 学級において基本的な生活習慣や学習態度が身につくよう日常的にきめ細かく指導する。

③進路指導の充実

ア) 進路指導部を中心として情報の提供やガイダンスを行い目標の実現を支援する。

イ) 担任を中心として生徒の進路相談を受け目標の設定と実現に向けた助言を行う。

④人権教育体制の充実

ア) 人権教育部において学年ごとの目標を設定し、年間の指導計画を立てる。

イ) 学級において日常的な人権意識の涵養につとめ、計画的な人権指導を実施する。

3. 今後の学校運営のあり方

本校の建学の精神や教育方針を根幹に据えつつ、現在的な教育課題や生徒・保護者のニーズに応えうる充実した教育活動を展開していこうとしている。そのためには保護者等の関係者による学校評価を謙虚に受け止め、常に教育改善に努めていきたい。教育内容を充実させ、教育目標が達成できるよう教育計画を立て、組織を整え、教員の資質の向上に努め、教員間の連携を強化し、学校全体の教育力向上に一層努めていきたいと考えている。